

# “地域でともに生きる”とは

—地区保健福祉センターの現場から—

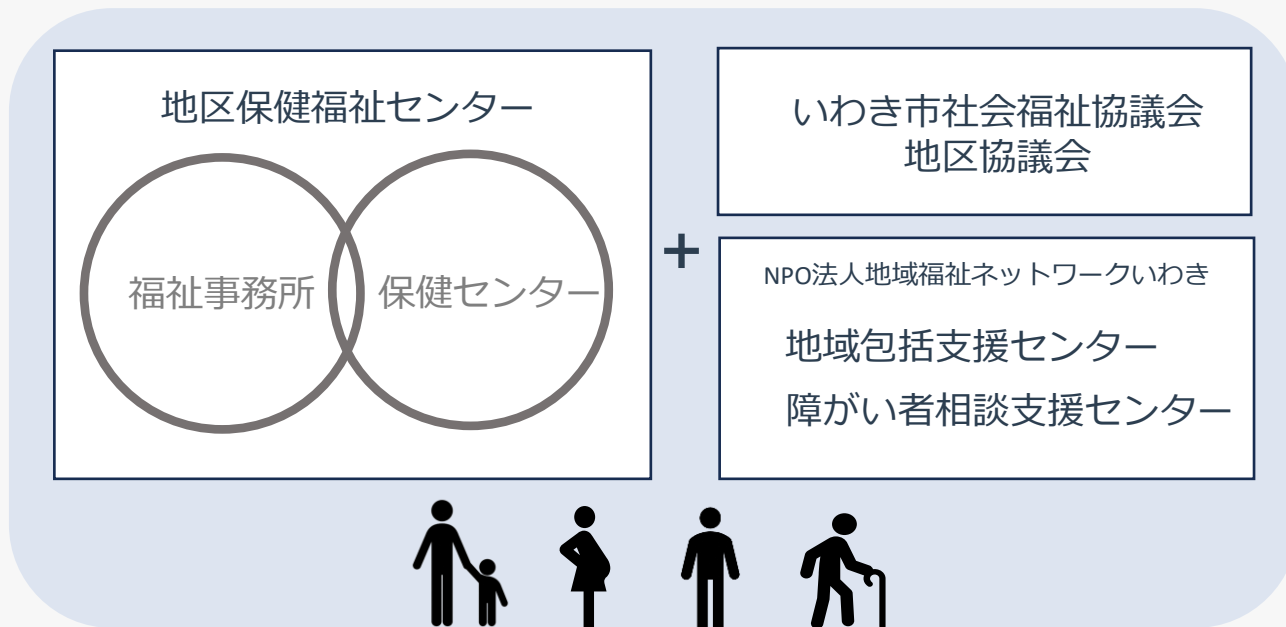


# 地区保健福祉センターとは

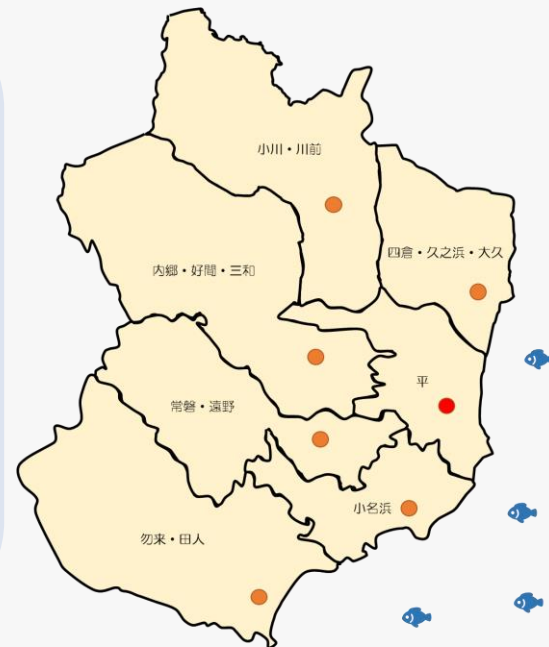
## 市民の保健（健康）と福祉（暮らし）の総合相談窓口

子どもから高齢者まで、さまざまな相談や申請を受け付け、暮らしと健康の両面から一体的にサポートする。

### ● ワンフロアで保健・福祉サービスを一体的に提供



### ● 市内7地区に設置



### ● 各種専門職を配置

保健師、社会福祉士、精神保健福祉士、社会福祉主事、就労支援員、家庭児童相談員、母子・父子自立支援員、母子・子育てコンシェルジュ…

生活保護

生活困窮

介護

子育て

障がい

健康

人間関係

居場所

ボランティア

- ・ 各分野ごとの支援担当がチームで連携しながら、1人ひとりの状況・ニーズに応じた支援を展開
- ・ 複合的な課題を抱える世帯にも、センター内外の関係機関と連携しながら、切れ目のない支援を実現することを目指している

# 個別支援の事例を通して

—社会的孤立の実態—



## SOSを出さない・出せない人

- ✓ 自分の現状をうまく認識できない
- ✓ どこに相談したらよいかわからない、教えてくれる人がいない
- ✓ 声をあげにくい状況に置かれている（自己責任・偏見...）

# 個別支援の事例を通して

— 個を地域で支える、個を支える地域をつくる —

---

## 誰もが当事者

全ての人が、人生の過程で、加齢や病気、障害のみならず、何らかの困難を抱え得る



人と人とのつながりを基盤としたセーフティネットが、全ての人のために必要

## 誰も取り残されない地域づくり

「助けて」といえる地域へ



# 地域づくりの事例を通して —地域ケア会議の運営—

## ■地域ケア会議とは



地域の課題を地域で解決することを目指し、地域住民、医療・福祉・介護の専門職、行政等、地域の関係者が集い、解決に向けた協議を行う場

### 〈目的〉地域包括ケアシステムの構築の推進

このまちでどんな風に暮らしていきたいか  
このまちに何があるか、誰がいるのか  
自分たちのまちに何が必要なのか...



### 協議・協働のプラットフォーム

- ・地域の現状や将来の見込み、ビジョン・戦略を共有
- ・地区保健福祉センターは、包括・社協と連携し、コーディネート機能を担う

**“全世代型”**  
の地域包括ケアへ



\* 地区保健福祉センターの所管エリアごとに設置し、それぞれの地域性に基づき地域づくりの取組を展開

# 地域づくりの事例を通して ー内郷地区の取組ー

## ■ 個別事例から地域課題の抽出と解決策の検討

### 地域課題

一人暮らしの増加、認知症相談の増加あり、孤立（付き合いの減少・喪失、悩みや困りごとの抱え込み）の問題や社会参加の機会減少が課題となっている。

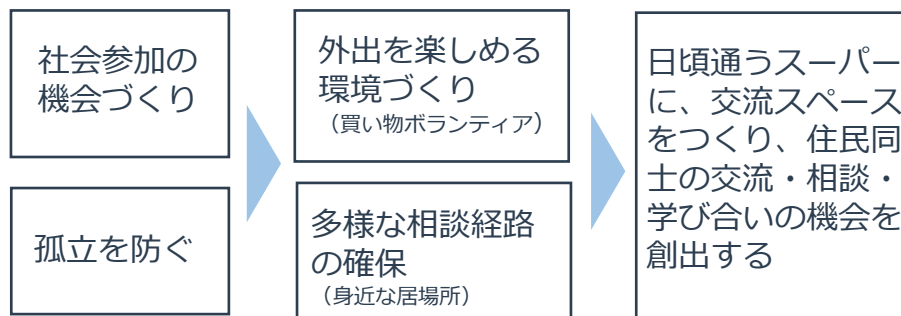


＼人とおしゃべりしたい。誰かとつながりたい。／



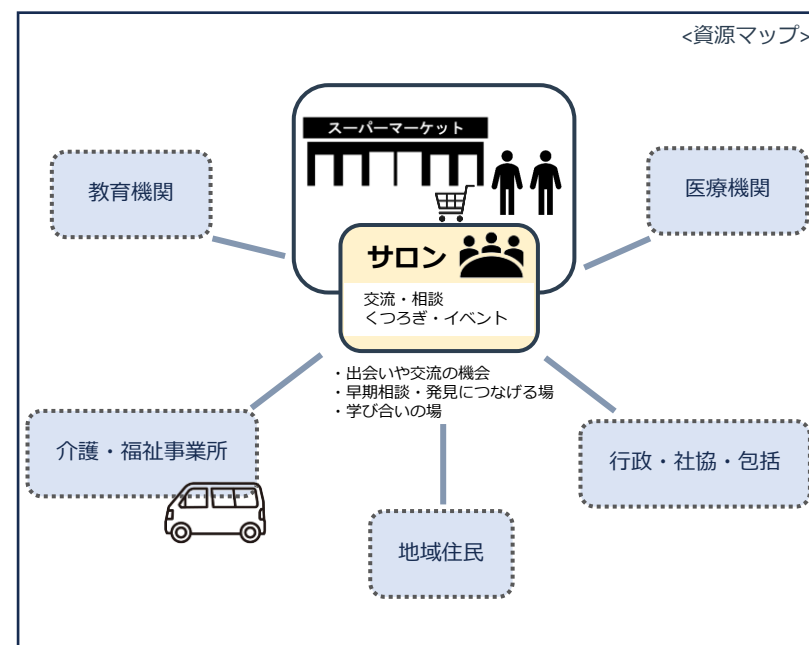
作業部会の様子

### 解決策の検討



### 取組の方向性

- 地区にある強み・資源（人・活動）を掛け合わせる  
スーパー：顧客満足度を高めたい！地域にやさしいスーパーになる！  
看護学校：「病気」でなく、「人」や、背景にある「暮らし」をみる人材を育てたい！
- 取組のプロセスを通して、多様な方の暮らしやすさの向上につなげる



## ■ R7上半期の取組 【ねらい】 まちづくりの仲間（プレーヤー）を増やす

【取組】 自分ごとと考えてもらう仕掛けとして  
住民向けワークショップ、店内でのインスタントシニア体験会を開催





## 世代・立場を超えた学び合い



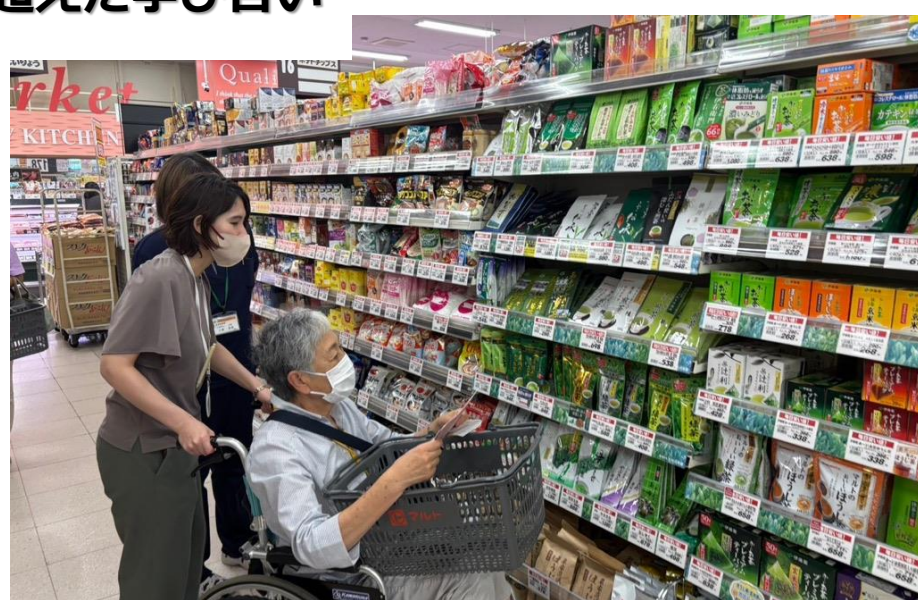
### 住民向けワークショップ（テーマ：地域福祉、認知症）

「誰もが暮らしやすいまち」についてともに考えるきっかけを提供し、市民のボランティア活動への参加意欲の促進や、地域福祉への主体的な参加と協働を促す。





## 世代・立場を超えた学び合い



買い物場面で高齢者等が直面する困難さや不自由さを疑似的に体験することで、介助される側の気持ちやコミュニケーションにおける配慮を学ぶ。また体験を通じて、バリアフリーに対する理解を深め、誰もが住みよい「共生」のまちづくりについて考えるきっかけとする。



“他人ごと”から“我がごと”へ



人の数だけ“我がごと”がある

# 共生のまちづくりに向けて

ーオーナーシップ（当事者意識）とパートナーシップー

---

## 一人ひとりが“ともに生きる”を実践するために

### ■誰もがまちづくりの担い手である（主体性・オーナーシップ）

- “我がごと” や “共感” が生まれる土壌をつくる

知る・出会う・体験するなど、関心をもつきっかけとなる機会をつくる

- 発信で、共感・関心を広げる

小さな声、小さな共感を広げる。地域にある無知・偏見を減らす

- 関心から**行動**へ、一歩踏み出す環境をつくる

多様な参加の入り口、得意・好きを活かせる役割や活動の場があること

人と人、人と活動をマッチングできるような仕組みがあること

ともに動く仲間とつながること

# 共生のまちづくりに向けて

## ■ とともに創る（協働・パートナーシップ）

- 分野・領域を超えた「学び合い」「共創」を広げる

Meeting = 出会い・対話の機会づくり

- 一人ひとりの“できること”を地域の力へ

